

令和7年度 教員長期研修  
研修種目 音楽科教育

# 主体的・対話的に学びを深める生徒の育成を目指した、 互いの強みを生かした参加型の組織づくり

ーファシリテーション基礎スキルを生かした

共創的な対話のある校内研修を通してー



庄原市立高野中学校  
久保田 園子

※本資料中のイラストは、Microsoft Copilot（画像生成機能）で作成したものが含まれます。

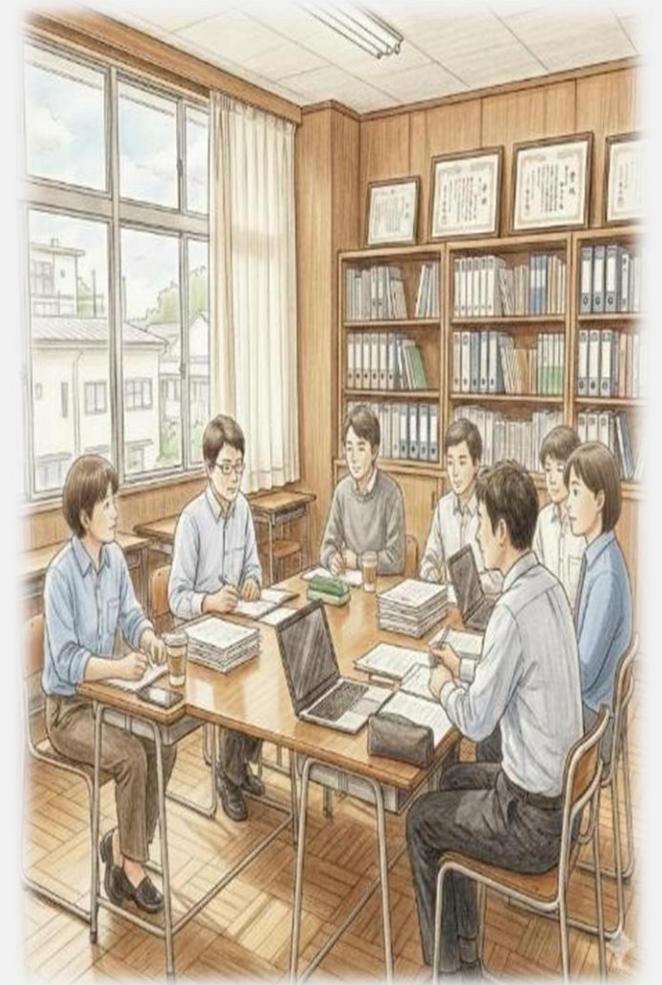
# 目次

- 1 研究の背景
- 2 研究の基本的な考え方
- 3 研究の概要
- 4 分析と考察
- 5 ミドルリーダーとしての役割
- 6 成果と課題、今後の展望

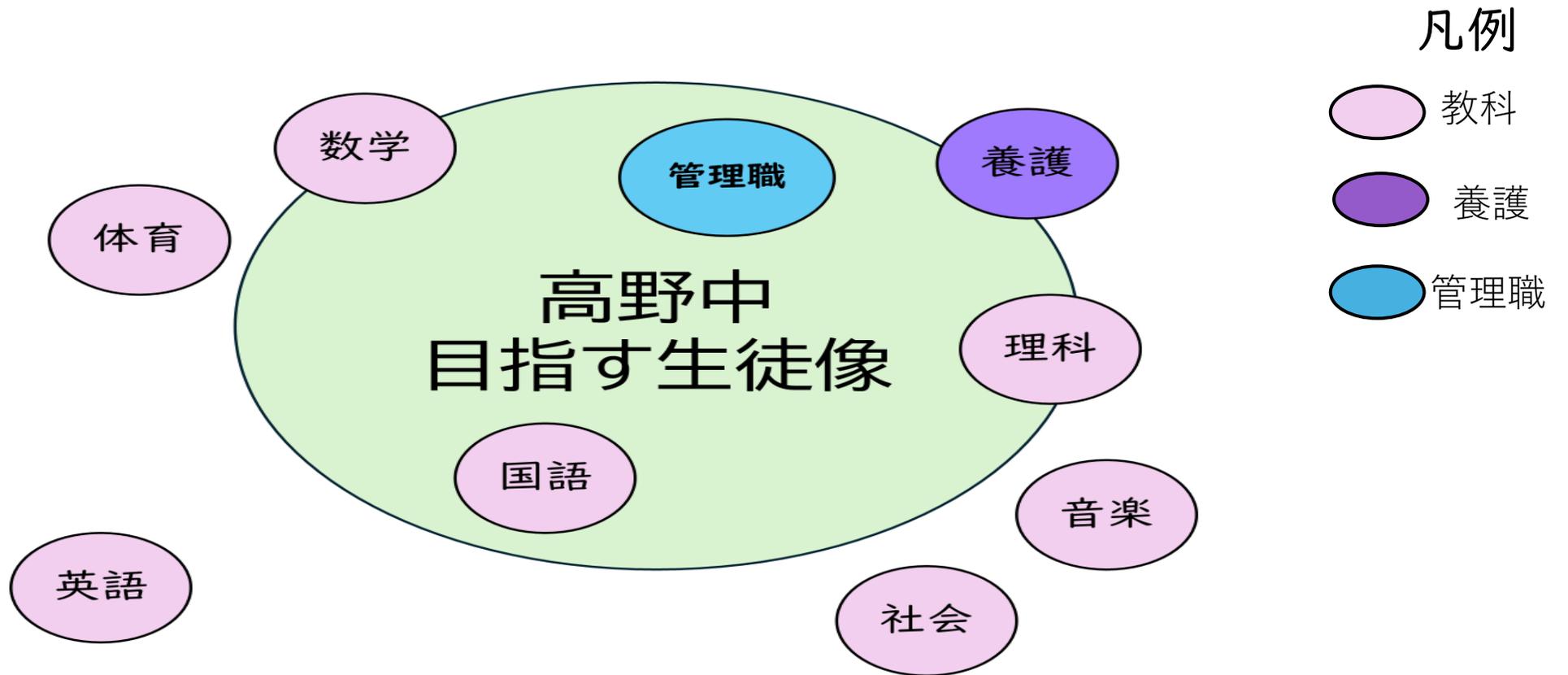
# 1 研究の背景

## 本校の授業研究における課題

- ・ 授業研究での学びが一人一人の授業に還元しきれていない。
- ・ 学びが組織全体へ共有されていない。



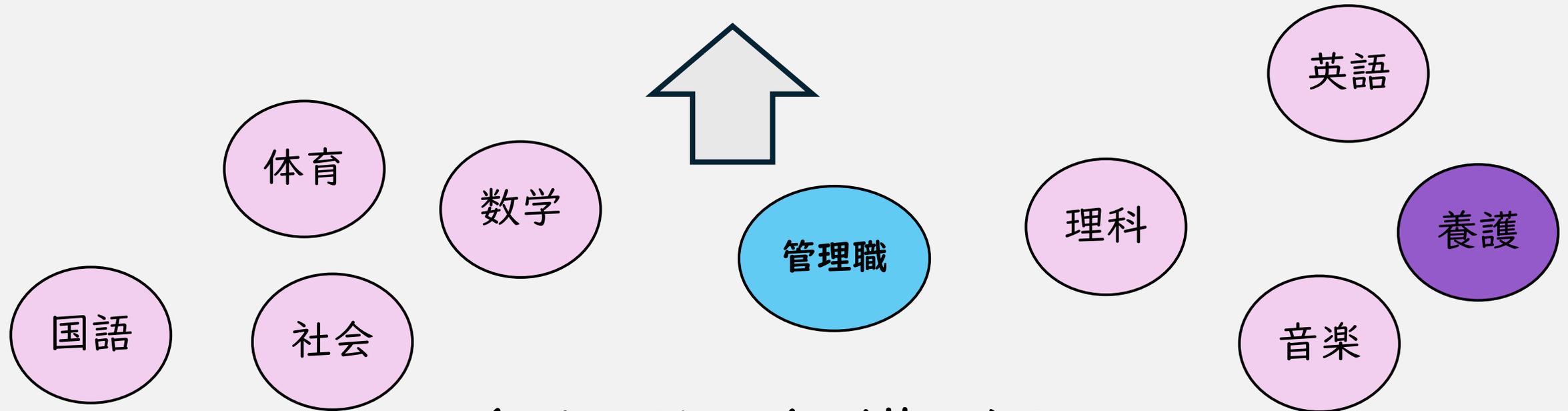
# 1 研究の背景



学びが個人でとどまり、組織全体でのつながりが弱い

# 解決の方向性 ⇒ 「対話」の場

互いの強みを共有し、組織の力として生かす



参加型の組織づくり

# 研究の仮説

ファシリテーション基礎スキルを生かした共創的な対話のある校内研修を繰り返せば、参加者が互いの強みを生かした問いを共有しながら、新たな気づきを生み出し、主体的・対話的に学びを促進することで、授業改善を維持できる参加型の組織になるであろう。

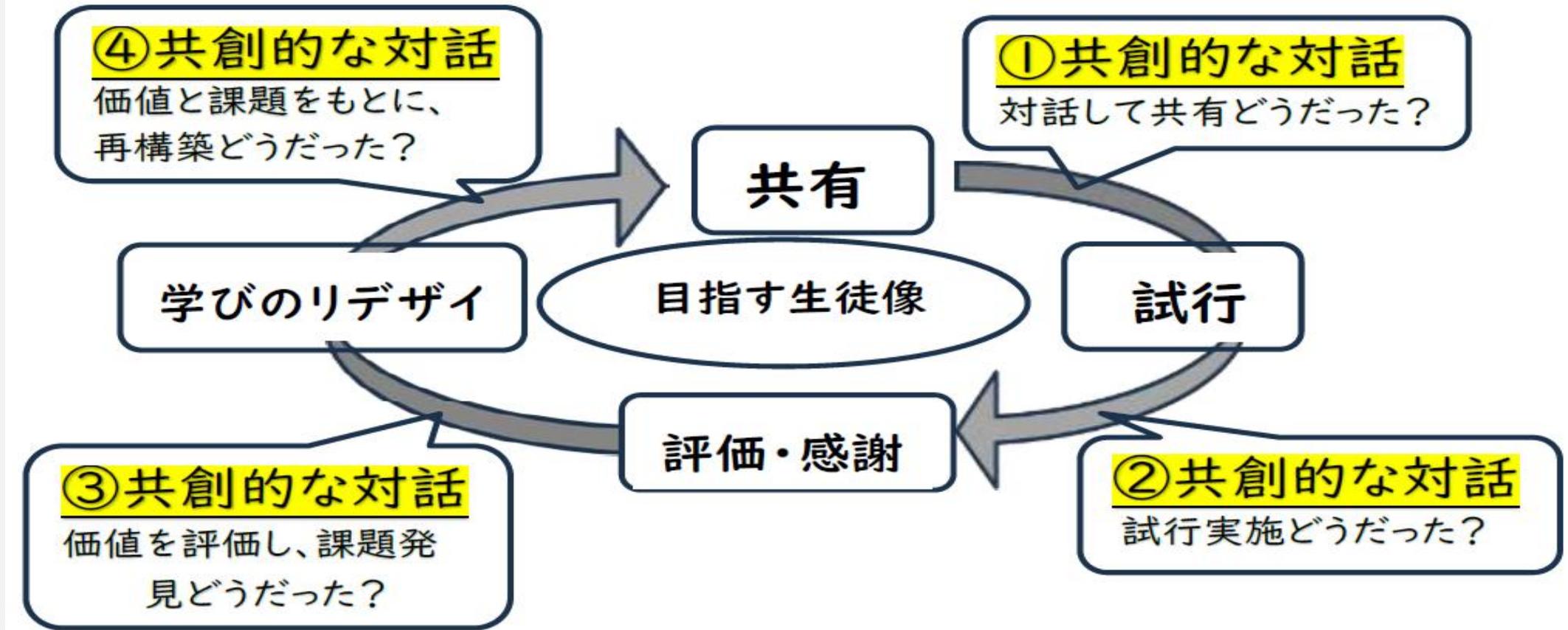
## 2 研究の基本的な考え方

「共創的な対話」のある校内研修とは

共創的な対話（石井陽子外、2022）  
「新たな知を創造する営み」

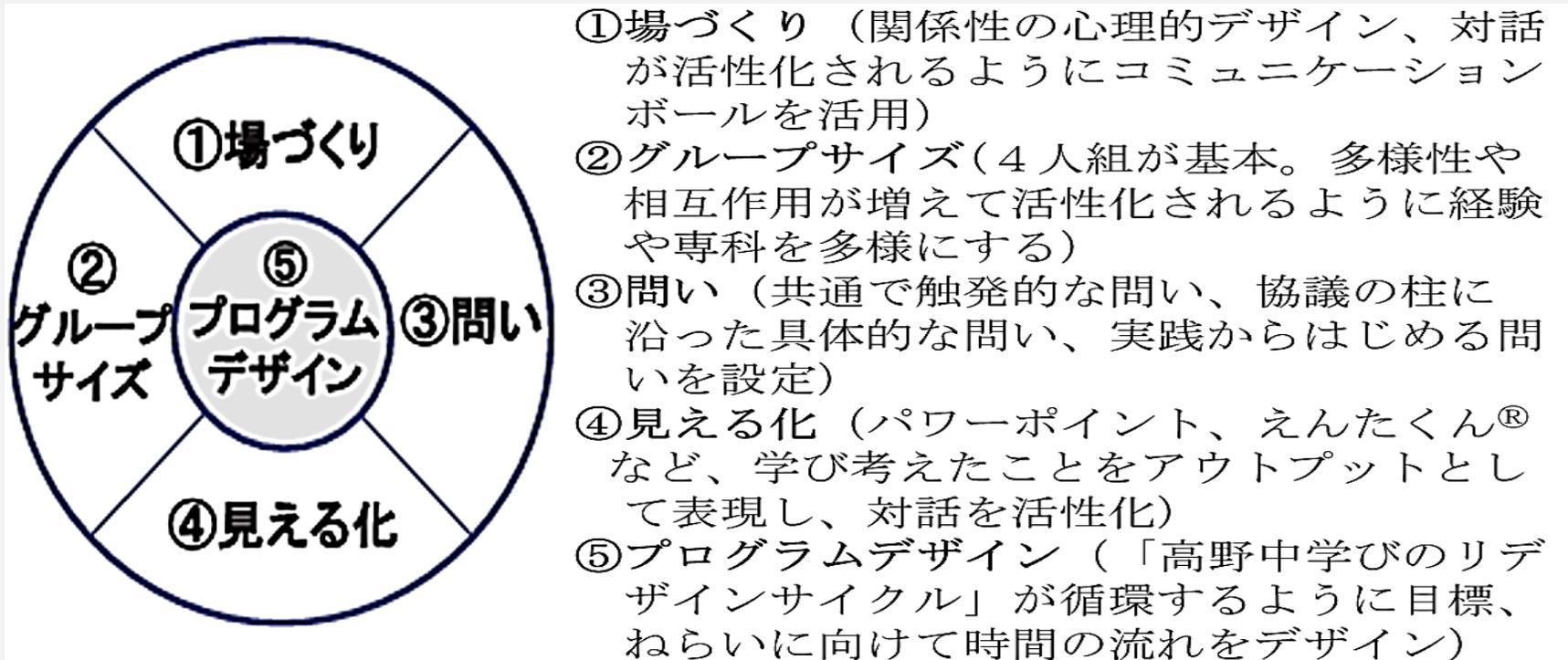
- ・ 対話者が繰り返し対話を行い、互いの共通認識を形成していく過程を重視した対話
- ・ 「問い」を通して内省を原動力とし、個人の知恵を組織全体の知恵へと高めることを目指した対話

「共創的な対話」から生まれる「問い」を繰り返すことによって、学びを循環させる持続可能なサイクル



## 「学びの研究リデザインサイクル」

# 「共創的な対話」の充実を図り、誰もが話しやすい「型」を導入し、心理的安全性を担保するファシリテーション基礎スキル

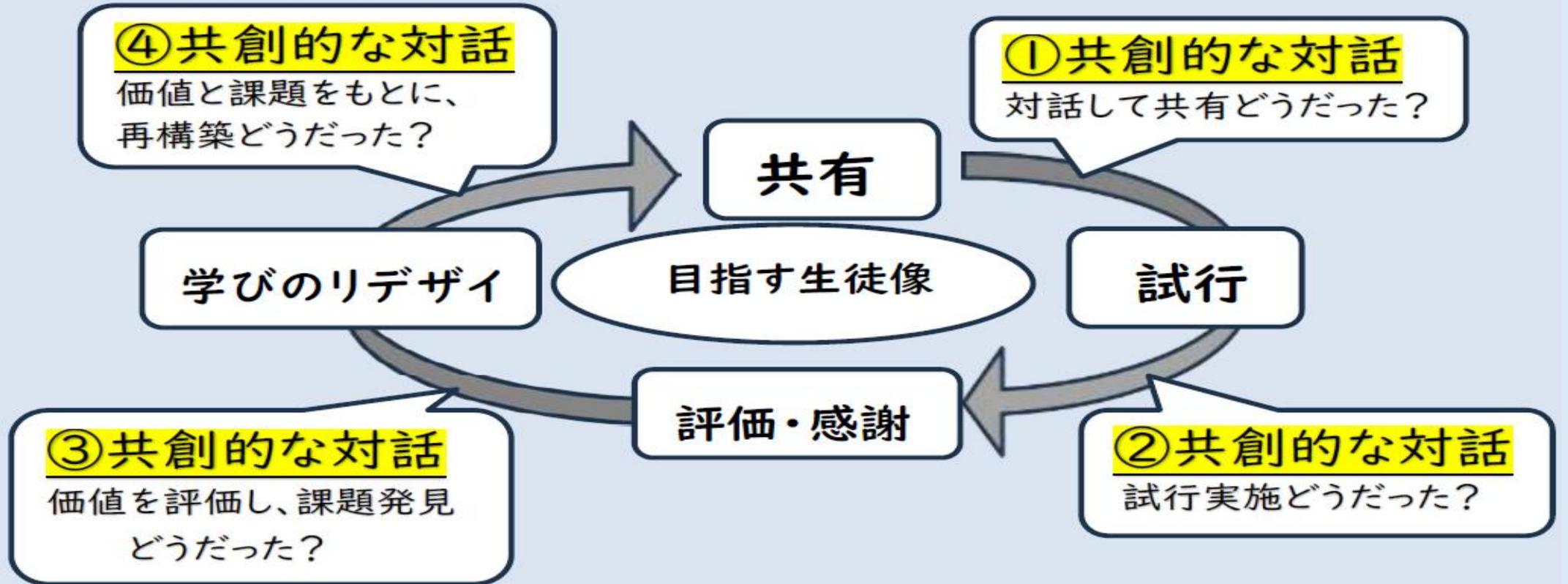


## ファシリテーション基礎スキル（中野民夫、2021）

〔参考〕中野民夫（2021）：「参加型の場を創るファシリテーション：学び合いの現場から」「ワークショップジャーナルフリー」60巻6号を参考に筆者作成

# 本研究の全体像を示す学びのサイクル

## ファシリテーション基礎スキル



「高野中学びの研究リデザインサイクル」

# 3 研究の概要

主体的・対話的に学びを深める生徒の育成を  
目指した、互いの強みを生かした参加型の  
組織づくり

— ファシリテーション基礎スキルを生かした  
共創的な対話のある校内研修を通して —

主体的・対話的な学びに向けて  
「表現力」への着目

# 3 研究の概要

## 全体計画

	日程	実施内容
実態調査	10月22日 (調査)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握</li> <li>・研究推進チーム発足(プロジェクト説明)</li> </ul>
研修の在り方を再度見つめ直す	10月30日 (研修①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の重点目標、目的、目標の共有</li> <li>・各授業の課題、成果の共有</li> </ul>
授業実践と改善	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>ファシリテーション基礎スキル</b></p> </div>	
評価・見直し		
継続	1月22日 (研修⑤)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果と課題を整理し、次時に向けて意見交換</li> <li>・授業提案</li> </ul>

授業実践と改善

評価・見直し

赤枠に示す過程の中で、共創的な対話を繰り返しながら「高野中学びの研究リデザインサイクル」が行われた。12

# 4 分析と考察 D教諭（若手）

課題

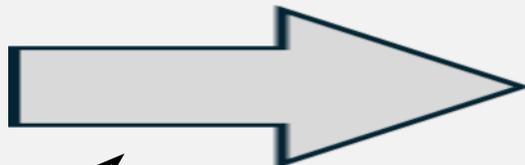
授業における対話の在り方について悩んでいた。

## 授業における対話の在り方

### Before

形式的な対話への注目

対話の活動をどのように仕組んだらよいか分からない。

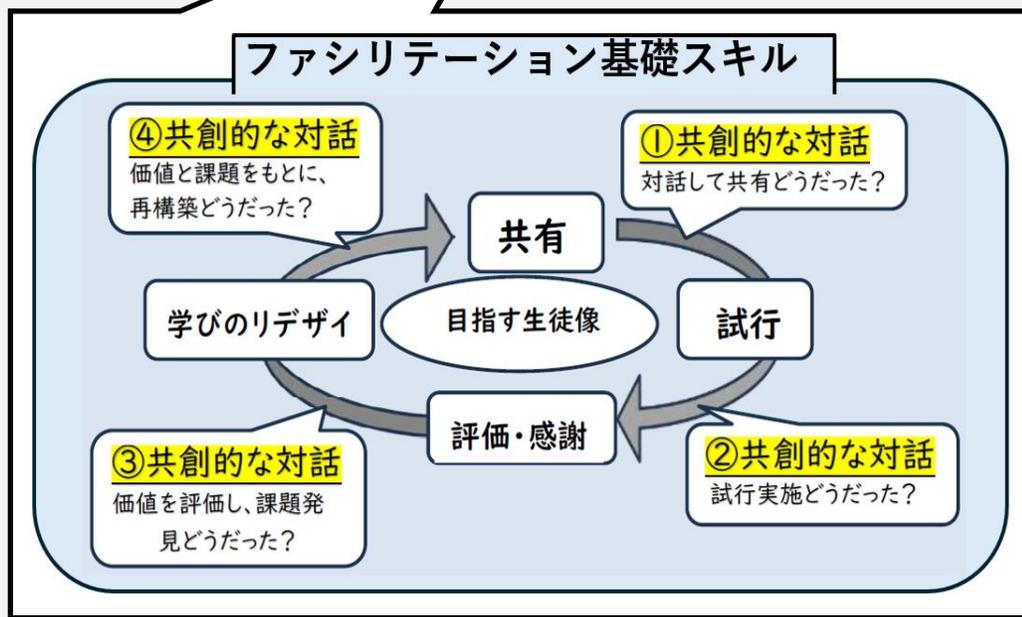


### After

主体的・対話的な学びにつながる対話への注目

相手意識・目的意識をもって表現し合う対話が重要

⇒ 主体的・対話的に学びを深める生徒の育成



# 4 分析と考察 D教諭（若手）

授業実践  
と改善

共有

発話者	第2回11月6日の共創的対話の内容 (抜粋)
D教諭	表現力を育成するために対話の活動をどのくらい、どのように仕組んだらよいか分からない。 《形式的な対話への注目》
B教諭	対話を深めるためには、「オープンエンドの問い」を仕組むことが大切と思うけど、数学は一問一答になりがち。
管理職	解き方、問いを作らせると、自由度の高い問いになるよね。

D教諭	表現をさせるためには、視覚的ツールを使うとイメージしやすくなるんです。 《形式的な対話への注目》
メンター	視覚的ツールって、どうやって生かすの？
E教諭	リトミックスカーフとかで、動きを試行錯誤したり...
管理職	でも、相手意識をもって表現することが大事だと思う。例えば、優しく歌ってみるとか。(省略) まずは自分の表現を試してみることかな。 《相手意識への注目へのきっかけ》

新たな価値の発見

[表示] 表中の水色の網掛けは、「対話」に対するズレが見られた箇所を示す。

# 4 分析と考察 D教諭（若手）

授業実践  
と改善

試行  
共有

発話者	第3回 11月20日の対話の内容（抜粋）
メンター	表現力ってどういうことですかね？ D先生どうですか？
D教諭	社会の公開授業を見させていただき、なるほどと思ったのが、ペア活動するのにちゃんと意義をもって取り組んでいるか、ってことですかね。
メンター	どういうこと？
D教諭	対話を授業の中に取り入れているけど、自分の授業を振り返ってみると、形式的になっていることが多いなと思うんです。《形式的な対話への注目の自覚》
メンター	もっと詳しく教えて。
D教諭	対話を設定した時、生徒が思考して話し合っているのか？そこまで、自分是对話の活動について考えていなかったと思う。生徒に目的意識をもたせていけばいいかなと思ってます。例えば、音楽の知識だけを習得するだけじゃなくて、リコーダーで「ハッピーバースデーを演奏してお祝いするという、目的意識をもって生徒が取り組むことが、本当の意味で対話的につながっていくのかと思います。そして、相手が喜ぶためにどうしたらよいかを考えさせたら、意味のある対話ができると思うんです。《相手意識・目的意識への注目》

新たな価値の発見

# 4 分析と考察 D教諭（若手）

授業実践  
と改善

共有

試行

評価・感謝

学びのリデザイン

事前の  
D教諭

対話の活動をどのくらい、どのように仕組んだらよいか分からない。

Before  
形式的な対話への  
注目

管理職：（対話の中では）**相手意識**をもって**表現**することが大切。



豊富な経験

《変化のきっかけ》  
経験・教科の特性に  
応じた考え



他教科

メンター：**表現力**って何だろう？

事後の  
D教諭

**相手意識・目的意識**をもって**表現**し合う**対話**が**重要**⇒主体的・対話的に学びを深める。

After  
主体的・対話的な学  
びにつながる対話へ  
の注目

# 4 分析と考察 メンター

授業実践  
と改善

共有

試行

評価・感謝

学びのリデザイン

事前の  
メンター

振り返りの意義がわからない。  
対話が深まらない。

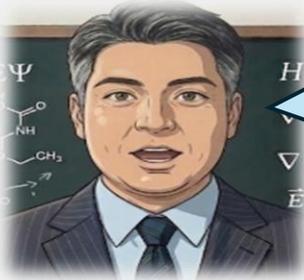
Before  
振り返り・対話への  
疑問

数学教師: オープンエンドの問いを  
仕組むことが大事だが難しい。



他教科

管理職: 自由度の高い問いを設定す  
ることが大切。



豊富な経験

体育教師: めあてを問いの形にすると、  
生徒が主体的に取り組むことができる。

《変化のきっかけ》  
共通項「問い」

事後の  
メンター

対話を深めるためには、生徒の深い思考  
を引き出す「問い」が重要

After  
問いを工夫することによ  
って、振り返りや対話  
が充実

# 4 分析と考察

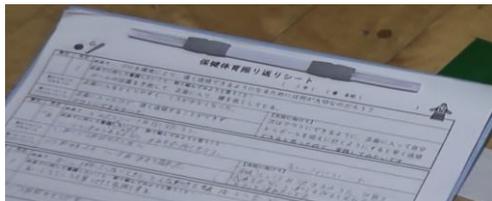
対話の活性化

「①場づくり」



共通の課題

「③問い」



多様な意見交換

「②グループサイズ」

えんたくん®

「④見える化」



〔注〕 えんたくん®の開発者・普及元: NPO法人Being Doing

学びの循環

「⑤プログラムデザイン」



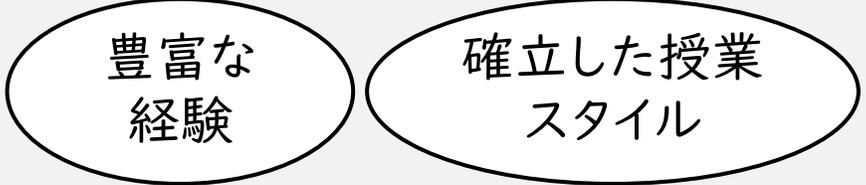
ファシリテーション基礎スキル

# 5 ミドルリーダーとしての役割

授業実践と  
改善

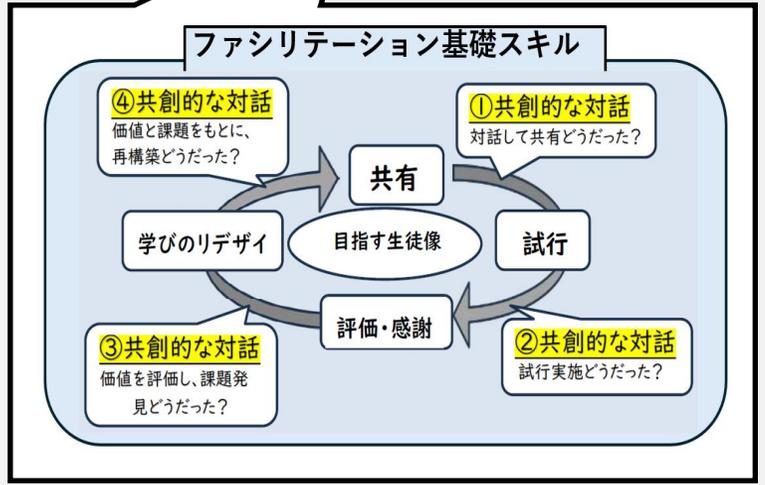
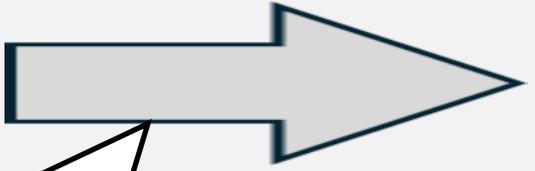
共有  
評価・感謝

## E教諭（ベテラン）の変容



### Before

- ・ 経験に基づく教育観
- ・ 確立された授業



### After

- ・ 自分一人では気付けなかったアイデアを他者との対話からもらい、思考が深まった。
- ・ 対話の場を深めていきたい。

# 5 ミドルリーダーとしての役割

## ミドルリーダー（筆者）の変容

評価・  
見直し

共有

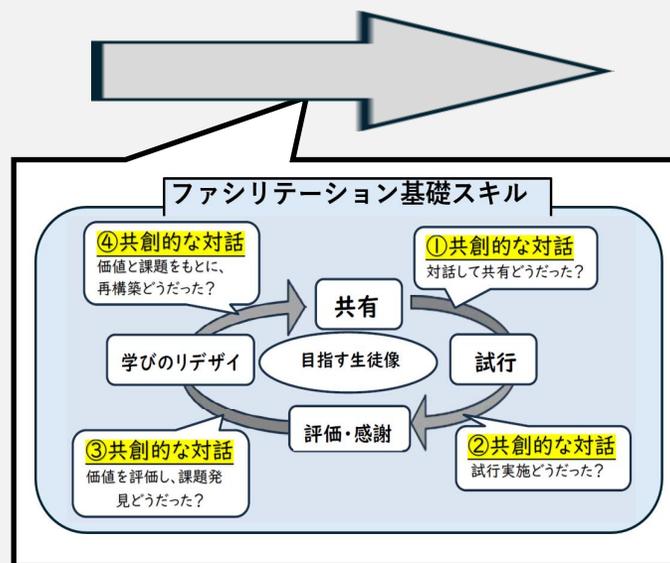
評価・感謝

学びのリデザイン

ミドルリーダーとしての向き合い方

Before

正解を提示、  
引っ張る。



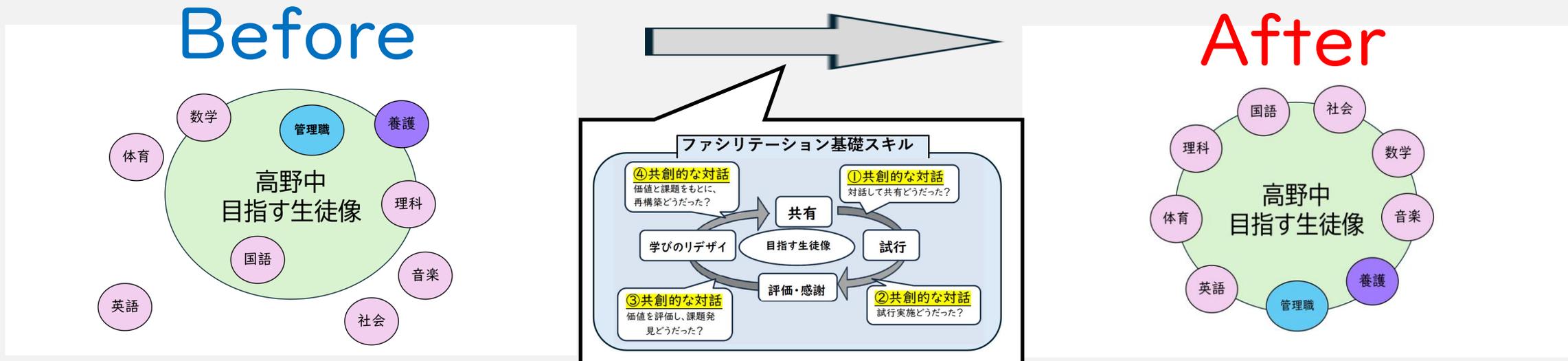
After

違いを認め、  
つながぎ、歩み寄る。

違いを認め合い、互いの強みを生かしていく。

# 6 成果と課題及び今後の展望

## 組織づくり



### 成果

対話を通して、教師が研修を「自分事」として捉え、互いの強みを生かした「参加型の組織づくり」へ前進できた。

教師アンケートより

- ・ 教科個人ではなく、高野中全体の事として研修に取り組むことで、表現力の育成につながるための取組を見いだせたのでいい時間だった。
- ・ 自分の視点をもって交流し、学んだことを実践するから良さや違いが見えてくる。
- ・ この研修がなければ、めあての提示の仕方や、振り返りシートを変えることがなかった。

# 6 成果と課題及び今後の展望

生徒の変容

## 成果

生徒アンケート(授業に関わる内容)  
肯定的評価が向上

質問項目		①生徒同士の対話の機会が多くある。	②友だちの意見に質問や比較をして、自分の考えを深めている。	③間違いを恐れず、自分の意見を最後まで伝えることができる。	④授業で学習したことをもとに、今後の学習を考えて振り返っている。	回答人数
実施月	7月	34.8% (8人)	26.1% (6人)	26.1% (6人)	30.4% (7人)	23
	12月	↑56.0% (14人)	↑40.0% (10人)	↑28.0% (7人)	↑44.0% (11人)	25

〔表示〕 表中のパーセント数値は、肯定的評価の割合を表す。

## 6 成果と課題及び今後の展望

### 課題

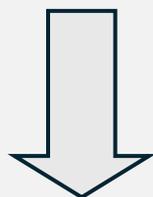
- ① 校内研修の運営を見直す必要性  
(内容の精選、時間配分)
- ② 対話の質を深める「問いづくり」

# 6 成果と課題及び今後の展望

## 今後の展望

共創的な対話による互いの強みを生かした  
参加型の組織づくりのさらなる発展

主体的・対話的に学び  
を深める教職員の姿



主体的・対話的に学び  
を深める生徒の育成



# 主な参考・引用文献

- ・中央教育審議会(令和4年):「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～(答申)」
- ・多田孝志(2011):「共創型対話における浮遊型思索と響感・推察力の意義ー21世紀の人間形成と対話ー」「目白大学人文学研究」第7号
- ・石井陽子・中谷桃子・渡辺昌洋(2022):「共創的な対話におけるグラフィックレコーディングの効果」「ヒューマンインタフェース学会論文誌」Vol.24 No.1
- ・中野民夫(2021):「参加型の場を創るファシリテーション:学び合いの現場から」「ワークショップジャーナルフリー」60巻6号
- ・広島県教育委員会(平成26年):「広島版「学びの変革」アクションプラン」
- ・大野大輔(2025):「研修リデザイン」教育開発研究所
- ・中央教育審議会(平成27):「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申)」
- ・独立行政法人教職員支援機構(令和6年):「「研修観の転換」に向けたNITSからの提案(第一次)～豊かな気づきの醸成～」
- ・独立行政法人教職員支援機構(令和4年):「NITS戦略～新たな学びへ～」
- ・豊田光世(2020):「p4cの授業デザインー共に考える探究と対話の時間の作り方ー」明治図書